



肺葉切除術の対象となる肺疾患

■ 病気の概要

肺腫瘍・肺膿瘍・肺嚢胞（気胸の原因となる）など、内科治療では改善が難しい肺の病変に対して、外科的に肺の一部（肺葉）を切除する治療を行うことがあります。術前のCT評価（専門施設での検査）で病変の位置・転移の有無を確認した上で、手術計画を立てます。

■ 主な症状（飼い主さんが気づくサイン）

- ・ 慢性的な咳（改善しない）
- ・ 血痰・喀血
- ・ 呼吸が苦しそう・運動するとすぐ疲れる
- ・ 発熱・元気消失
- ・ 体重減少

■ どんな検査をするの？

- ・ 胸部X線検査
- ・ CT検査：専門施設をご紹介します
- ・ 血液検査（全身状態の確認）

■ 治療方法

内科治療

- ・ 抗菌薬（感染を疑う場合）
- ・ 術前の全身状態改善
- ・ 酸素補助療法（必要に応じて）

外科治療

- ・ 肺葉切除術：CT評価後に専門医と連携して対応

■ ご家庭で気をつけること

- ・ 術後の安静
- ・ 定期的な胸部X線検査（再発チェック）
- ・ 咳・血痰の変化に注意

■ よくある質問

Q. 肺を切っても大丈夫ですか？

A. 犬猫は複数の肺葉を持つため、1～2葉の切除でも残りの肺で呼吸機能を補うことができます。

Q. 手術はどこで行いますか？

A. 当院で対応または専門施設へのご紹介となります。CT 評価後にご説明します。

■ なつ動物病院での診療について

胸部疾患の初期評価・内科管理に対応します。CT 撮影は専門施設での検査をご案内しています。

「咳が治らない」「胸に影があると言われた」場合はご相談ください。

なつ動物病院 気になることがあれば、予約外でもお気軽にご来院ください